

第九拾六号

青花まつり in ぎやらりいふじ山

ぎやらりいふじ山は、しん窯青花当主の実妹たか子の嫁ぎ先です。彼女が佐賀駅前(はぐくれ荘入口)にギャラリーを開設して、今年15周年を迎えます。妹ながら細腕でよく15年間続けてきたなあと誇りに思っています。たか子のご主人をはじめ良い子供達に恵まれ、家族と友人の応援のおかげだと思っております。

青花まつり15周年のために、初日に橋口専務が応援にかけつけました。文化度の高い佐賀のお客様とやきもの談議ができて良かったと報告を受けました。紅毛手をはじめ、ざくろ絵やぶどう絵にも関心が高く、まだまだやきもの暮らしに無くてはならないと実感したそうです。

佐賀のがばいばあちゃんや佐賀北高の甲子園全国制覇など、今佐賀は熱く熱く燃えています。その潮流にのって、青花ブランドも有田の自信と誇りを持って生産し続けなければと思っています。



第9期陶芸教室

陶芸教室も、今期で第9期を迎えます。しん窯自慢のロクロ職人さん達4人と一緒に楽しい教室を開いております。9期連続受講の生徒さんもいらっしゃる、私達が創作のヒントをいただく事も多いのです。高質な生徒さん達から、人生の良き先輩として作る前に人として魅力とは何かを教えていただきます。9期目を迎えて、やきものづくりを通して講師陣である職人さん達の間人修養の場でもあります。

今期も登り窯窯たきパーティーが楽しみです。

佐賀北高甲子園全国制覇に思う

感動の8月22日(水)から早1ヶ月が経ちました。青花瓦版先月号で佐賀北高優勝に触れていませんでしたので、熱心な読者のお客様からお叱りを受けました。改めて古新聞のようなコラムになってしまいましたが、コメントさせていただきます。

まずお客様のメールから・・・

佐賀在住の小学校当時の先生からのメール。80歳にしてこの感動を読んで下さい。

A様へ。佐賀北高 - 帝京高校 準々決勝戦

昨日の試合は球史に残る試合でしたね。あの試合をそのまま今後放送したら、今の若者達にはいろんな人生への創造が湧いてくることでしょう。常識では勝つはずがない試合、しかし監督の人間性、謙虚さ、こんなものが戦う生徒の精神力・集中力になっているのかも。人間の限界のない力みたいなものを感じます。明日も応援しましょう。

私からの返事です。

前略。裏金問題、特待生制度に対するさわやかな投石、ハンディを味方にする強い心、師弟愛、日本人の判官びいき、一球の運命、高校生とは思えない超ファインプレー、周りを思いやる謙虚さなど、言い尽くせないほど人間の生き方に対する警鐘や啓蒙など人生の教科書みたいでした。後日「感動をありがとう」のグラビアを買いました。13年前の佐賀商優勝のグラビアも持っていますので、宝物がまたひとつ増えました。

職人さんのひとりごと

～第12回・吉丸 崇さん～

茶碗屋が顔を合わせると、いつも「よか焼きもん」の話になります。つまり「良い焼き物を作るには？」ということ。されど、これがなかなか難しい。私自身、駆け出しの頃は自分が納得するものを、と思っていましたが、その思いだけではどうしようもありません。ただ最近分かったことは、これは私が決めることではなく、他者が決めることということ。

私に関わった焼き物達が、皆様に「よか焼きもん」と言われるよう頑張りたいと思います。

